

100億宣言



主力サービス：高速道路補修工事

○本社所在地：新潟市東区豊2丁目
2番36号

○事業概要：橋梁・道路・マンション等の
改修工事全般

○常時使用する従業員：29人
(グループ全体・2024年9月期)

○現在の売上高：21億円
(グループ全体・2024年9月期)

○法人番号：5110001005560

○Web：
<https://www.moriken.construction/>

株式会社モリケン（土木建設業）

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役会長
森 慎一郎

（株）モリケンは新潟市に本社を置いて土木建設業の中でも高速道路など、重要インフラの補修工事と建築構造物の改修工事をメインに行う。◆企業理念：**土木建設工事で安全・安心な未来に向けて社会課題を解決する** ◆ミッション（基本戦略）：①新しいシステムや技術を導入して「効率的な」補修工事を実施する。②技術革新や新工法の習得に熱心に取り組み、従来の工法との差別化を確立する。③インフラの「延命化」など国土交通省の方針方策に沿って会社経営を行う。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

- ・2037年の売上高100億円突破。
- ・施工資材販売のグループ会社である（株）オリオンと協働して目標達成する。

課題

- 1) 人手不足の中で、施工班（人材）の確保と育成及び教育。
〈発注元大手ゼネコン等に対する責任と、評価が重要〉
- 2) 現況の「生産力」（自分の業務も含めて）の拡大と対応策。
- 3) 売上拡大（＝生産力拡大の対応と**自社インフラの対応**）
ヒト・モノ・カネに対する「売上拡大時」のリスクヘッジ。
- 4) 顧客および社会のニーズに対応すべく、受注体制（設備等も含む）の整備。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

課題解決を中心に具体的な対応策の提示

- 1) 営業活動（これまで社長中心）において権限委譲と営業。
業務における**風通しの良い組織の展開**。
- 2) 施工実績（社内の施工班増と外注先の連携）において
「仕事が増える」：「これまでの評価を絶対下げない」
- 3) 売上拡大の自社環境対応（**施工機械類の充実**。材料関連
の入出庫・在庫管理などの高効率化）
- 4) 市場の上流を開拓：橋梁・下水等の**劣化調査に進出**。

実施体制

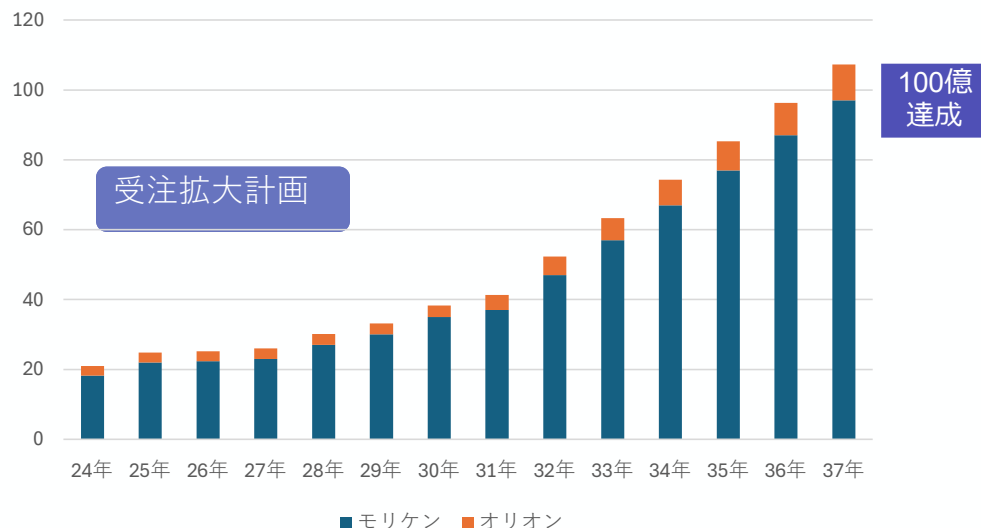
- ・代表は現況、営業的な見積作成や値段の取り決めを行って
いるが、事業拡大に伴う人材の増員が必要。
- ・営業社員・技術社員共に教育や円滑なコミュニケーション
が必須となる。新に通信ソフトやアプリの利用および使い
やすいITソフトを導入し、効率の向上を図る。
- ・技術部責任者関連：技術部長中心に施工班の高度化（施工
班の拡大とオペレーターや世話役を中心にスキルアップを
行う。また「訓練部隊」「教育部隊」を育成する。

※本宣言は企業自身がその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

売上高100億円実現のための計画

当社はマンションやビルの外壁防水工事から事業を開始し、近年は高速道路の補修関連工事を大手ゼネコンの下請け（専門業者）として施工している。具体的な案件として

- ◆「JR東日本の新幹線大規模改修」など大規模インフラ整備にも進出しており、5社あるJR東日本のパートナー会社のうち新潟の第一建設工業および関東の東鉄工業から毎年工事受注を受けており、更に2031年からは大規模修繕工事を請け負う予定である。
- ◆原子力関係の建設工事においては、清水建設・竹中工務店・安藤間から直接工事を、また鹿島建設と大成建設については建装工業を経由して受注している。高線量エリアでのロボット開発などは建装工業と共同で、東京電力の担当者と直接打合せを継続中であり受注拡大が見込まれる。
- ◆ネクスコ関連工事では、主にショーボンド建設、日特建設、三井住友建設、本間組からの受注が多く、民間企業や施設の改修工事において福田組など地場ゼネコンと連携し、管理組合との直接やり取りによる元請け受注も複数件ある。国交省や各自治体関連の案件については、地元中堅ゼネコンからの受注が中心である。更にゼネコンからの要請を受けて「道路陥没事故」で問題となっている下水道補修工事にも進出。また、道路や橋梁などのメンテナンス工事においても受注項目を拡大していく計画である。



参考資料 JR東日本プレスリリース一部

- 資料は2021年3月のJR東日本ニュースの一部分であり、「新幹線の大規模改修」について計画の詳細が記載されている。それによると2031年からの10年間で10,406億円の総額費用が計上されている。
- 当社はこれまでも左記のとおり、JR東日本線路や設備の補修工事を受注しており、その実績と信用からこの大規模改修に関しても既に先行部分に着手している。100億宣言は「宣言して営業活動」ではなく「依頼が来ているので、宣言が必須という状況」である。

JR東日本ニュース



2021年3月3日
東日本旅客鉄道株式会社

新幹線の大規模改修に向けて技術開発を進めます ～ 実物大の新幹線模擬設備を新たに構築 ～

- JR 東日本は、1982 年に開業した東北新幹線（東京～盛岡間）および上越新幹線（大宮～新潟間）の合計約 780 km の区間について、将来にわたる安定輸送確保のため、橋りょうやトンネルなどの新幹線構造物を対象として 2031 年度から 10 年間で大規模に改修することを計画しています。
- このたび、実物大の模擬設備を構築し、大規模改修の着手に向けて、改修材料の開発や作業の機械化などの技術開発を順次、進めていきます。
- 実物大の模擬設備では、大規模改修だけでなく、新幹線構造物に関わる日々の維持管理の生産性向上・働き方改革に向けて、ICT などでも活用したさまざまな技術革新や人材育成を進めていきます。

100億円宣言に向けた当社の現況と課題

- 国土交通省やNEXCOの高速道路等の重要インフラの「延命化策」における、補修工事や耐震補強工事を大手ゼネコンから受注している。
- 右写真は「大規模延命化補修工事の全景」（イメージ写真）と施工中のコンクリート補修工事の部分である。
- 実際の施工は超高压水を使った劣化個所のコンクリート除去や、耐震補強の最終仕上げである。



課題と対応

課題は大きく3項目に分類

1. 受注（営業的）課題

対応 営業部として人数を確保し、情報共有と新分野（JR東日本他鉄道インフラ関連・下水道と橋梁関連の劣化調査）進出。

2. 技術（施工現場強化）課題

施工班のレベルアップ 人材の育成と効率的な機械化 施工コストの削減 周辺同業者との連携対応。

効率的な機械への投資。施工班ベテランの教育義務を含む人材の再編成とスキルアップ。

勉強会PDCAの実施と賃上げの継続。

3. 社内的な整備（権限委譲とDX）課題

バックヤードとしての工場倉庫・事務所・ソフトウェア・組織の再整備。

対応：工場事務所の新築 倉庫エリアの整備 バックヤードの整備に対する投資 使い勝手の良いソフトウェアの導入と教育組織に対する貢献としての「成果貢献者への評価」を整備。

企業グループとしての取り組み

グループ子会社（施工資材販売のオリオン）との協働による販売事業の規模拡大。

株式会社モリケン
建設事業

株式会社オリオン
建設資材卸売事業